

令和6年度 事業報告

葛城市社会福祉協議会は、地域福祉活動推進の中核的役割を果たすべく、各種の福祉事業を実施しました。以下、令和6年度の主な事業内容について報告します。

葛城市社会福祉協議会の自主事業

1. 広報活動事業

広報誌【ゆうあい通信】の年4回発行に加え、ホームページの活用、また、SNS(Facebook、Instagram)も積極的に活用し、幅広い世代に対して当会活動のPRに努めました。

○SNS フォロワー数

	5年度	6年度	前年度差
Facebook	171人	211人	+40人
Instagram	406人	714人	+308人

2. 福祉基金

福祉事業推進のための寄附金として、9件、総額497,439円をいただきました。

3. 福祉推進事業

○ふれあい・いきいきサロン助成事業

住民のだれもが気軽に集い地域住民が主体となって自主的に運営する「ふれあい・いきいきサロン」24団体に対し720,000円を助成しました。

○福祉教育

新庄中学校3年生を対象に、福祉に関する基本的な考え方や、車椅子の操作方法についての授業を実施しました。

新庄小学校4年生を対象に、視覚障害を持つ当事者との協働により、当事者の体験談や地域共生につながる考え方についての授業を実施しました。

○病没家庭児童・交通遺児等激励金支給事業

市内在住で疾病や負傷等により、父又は母等が死亡した18歳未満の児童の健全な育成を図るため、1世帯に激励金20,000円を支給します。本年度は申請がありませんでした。

○火災見舞金交付事業

市内在住の火災により罹災された1世帯に対し、激励金20,000円を支給します。本年度は申請がありませんでした。

○各種カルチャー教室の開催

市内在住の方を対象に、生きがいと健康づくりを目的とした陶芸教室と太極拳教室を開講しました。

陶芸教室においては1コース全5回を計4回開講して延べ44名参加されました。

太極拳教室においては5月から開講して全30回開講し、延べ751名参加されました。

○『人権・行政・心配ごと相談』の開設

毎月、第2木曜日は新庄庁舎、第3木曜日は歴史博物館、第4木曜日は當麻文化会館において、人権擁護委員、行政相談委員、民生児童委員の方々を相談員として、人権・行政・心配ごと相談を36回実施しました。相談件数は35件ありました。

○福祉施設協働事業（世代間交流会）

はじかみ保育園、華表保育園の園児、延べ48名が計2回、ウォームヴィラ新庄園、葛城市社会福祉協議会指定地域密着型通所介護事業所の利用者と楽しい時間を過ごしました。

○日常生活用具貸出事業

市内在住の寝たきり高齢者、ひとり暮らし高齢者及び重度身体障害者等57名の方に、車椅子、療養ベッドなどの介護機器を59点貸し出しました。

○法人後見事業

日常生活自立支援事業利用者の判断能力が低下し、事業利用継続が難しくなった場合等、葛城市社会福祉協議会が法人として成年後見人等に就任し必要な支援を行っています。また、成年後見制度利用等についての相談の対応を行いました。(延べ受任件数 保佐：2件、補助：1件)

成年後見制度の普及啓発のために、福祉関係者向けの権利擁護セミナーを開催しました。

4. 市内ボランティア団体の活動

○葛城市ボランティア連絡協議会

役員会を随時開催し各団体間の情報共有等、また市内の福祉情報の発信や講座の案内、奈良県ボランティア連絡協議会からの情報を共有、セミナー等の案内を行いました。

○ふたば会

登録者120名により、ひとり暮らし高齢者配食サービス(まごころ弁当)の実施及び敬老の日手作りプレゼントの作製など、地域で活動をしていただきました。

○日赤奉仕団

登録者36名により、防災頭巾の作成及び幼稚園への寄贈など赤十字活動を推進していただきました。

○ゆうフレンズ会

登録者87名により、デイサービス利用者の介護補助、ゆうあいステーションの受付業務、食堂での片付けの補助等のほか、生花等の技術提供のボランティア活動をしていただきました。

○手話サークル友情

登録者43名により、手話の普及啓発や学習会、手話奉仕員養成講座の講師協力など、地域で活動をしていただきました。

5. 居宅介護支援事業

介護支援専門員によって個々の利用者の心身の状況、生活環境を把握し、利用者が日常生活を継続していく上で解決すべき課題の分析を行い、適切な保健・医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるようコーディネートし、利用者の要介護状態の軽減若しくは悪化の防止又は要介護状態となることの予防に資するようサービスを提供しました。

○介護保険(要介護認定、要支援認定)申請代行

要介護者やその家族に代わり介護保険(要介護認定、要支援認定)申請の代行を行いました。

○介護保険要介護認定調査

他市からの委託による介護保険要介護認定調査を1件行いました。

○ケアプラン作成件数

対象者	5年度	6年度	前年度比
要介護認定者	2,061件	2,060件	△0.05%
要支援認定者	443件	394件	△11.1%

○収入状況

事業	5年度	6年度	前年度比
居宅介護支援事業	35,972,549円	35,986,770円	+0.04%

6. 訪問介護(第1号訪問)事業

利用者の日常生活全般の状況及び家族の希望を踏まえて、常に利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立って当該目標を達成するための身体介護・生活援助のサービスの提供を行いました。

○延利用者数

対象者	5年度	6年度	前年度比
要介護認定者	6,466名	5,873名	△ 9.2%
要支援認定者	1,535名	2,047名	+33.4%

○収入状況

事業	5年度	6年度	前年度比
訪問介護事業	24,214,046円	24,744,889円	+ 2.2%

7. 地域密着型通所介護（第1号通所）事業

利用者が可能な限りその居宅において、その能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、日常生活上の動作訓練及び世話等の援助を行い、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに利用者の身体的、精神的負担の軽減を図るサービスを提供しました。

○延利用者数

対象者	5年度	6年度	前年度比
要介護認定者	2,502名	3,858名	+54.2%
要支援認定者	680名	1,030名	+51.5%

○収入状況

事業	5年度	6年度	前年度比
地域密着型通所介護事業	27,499,204円	43,964,581円	+59.9%

8. 相談支援事業

障害者(児)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう事業を実施しました。

○障害支援区分認定調査

葛城市からの委託による障害支援区分認定調査を26件、他市からの委託による障害支援区分認定調査を4件、合計30件行いました。

○障害者相談支援事業

葛城市からの委託により障がいのある人の福祉に関する様々な問題について、必要な情報の提供、障害福祉サービスの利用支援、権利擁護のために必要な援助等の支援を延べ68名、延べ264件行いました。

○障害福祉サービス等の利用計画作成件数（計画相談支援、障害児相談支援）

事業	5年度	6年度	前年度比
相談支援事業	227件	210件	△ 7.5%

○収入状況

事業	5年度	6年度	前年度比
相談支援事業	8,461,089円	8,799,628円	+ 4.0%

9. 居宅介護等事業

利用者の日常生活全般の状況及び家族の希望を踏まえて援助の目標となる居宅介護計画に基づき、常に利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立って当該目標を達成するための居宅介護、同行援護、行動援護、移動支援のサービスを提供しました。

○延利用者数

事業	5年度	6年度	前年度比
居宅介護事業	1,540名	1,863名	+21.0%
同行援護事業	113名	85名	△24.8%
行動援護事業	131名	237名	+80.9%
移動支援事業	29名	28名	△ 3.4%

○収入状況

事業	5年度	6年度	前年度比
居宅介護等事業	7,598,269円	10,050,404円	+32.3%

10. 生活介護事業

利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、常時介護を要する利用者に対して、排泄及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供、その他の身体機能又は生活能力の向上のための必要な支援を提供しました。また、障がいのある人を日常的に介護している家族の一時的な休息を確保するため、日中における活動の場を確保・提供し、日常的な訓練を実施しました。

○延利用者数

事業	5年度	6年度	前年度比
生活介護事業	2,462名	2,405名	△2.3%
日中一時支援事業	55名	67名	+21.8%

○収入状況

事業	5年度	6年度	前年度比
生活介護事業	32,429,785円	34,302,511円	+5.8%

11. 放課後等デイサービス事業

障害児が日常生活における基本動作を習得し、集団生活に適應することができるよう、当該障害児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び訓練を行いました。

○延利用者数

事業	5年度	6年度	前年度比
放課後等デイサービス事業	2,055名	2,164名	+5.3%

○収入状況

事業	5年度	6年度	前年度比
放課後等デイサービス事業	22,207,232円	24,389,637円	+9.8%

葛城市からの受託事業

12. 生活支援体制整備事業

高齢者が住みなれた地域で安心して生活を継続できるようにするために、生活支援コーディネーターを配置し、地域の支え合い・助け合い活動を推進し、不足するサービス及び支援の創出を行いました。

○見守り活動 緊急時医療情報キット(通称:あんしんキット)の配置と共に地域の見守り体制を構築。令和6年度末までに25大字(31地区)約2,800世帯に配置するとともに、広域消防との定期的な情報連携も行いました。

○通いの場 高齢者の閉じこもり防止、フレイル予防、社会参加を目的とし、積極的な立ち上げ支援を行うとともに、イベント・勉強会の開催などにより既存の活動団体への運営支援、課題解決、ネットワーク構築に繋がりました。

また、多世代交流の拠点、地域の居場所として世代を超えた地域の居場所(こども食堂・地域食堂)の立ち上げ支援を行うことで、地域コミュニティの強化につながりました。

○支え合い活動 公的サービスで補完できない高齢者の生活課題を解決するため、住民有志の組織化を図るとともに、生活支援、移動・外出支援を含むボランティアグループの立ち上げ支援や、既存のボランティアグループの運営支援を行いました。

また、葛城市における有償ボランティアなどの支え合い活動は、県内外からも高く評価され、全国から視察や講師派遣などの依頼につながっております。

◆視察 8件（三重県伊勢市役所、奈良市都祁地区民協など）

◆講師派遣 12件（京都府庁、福井県庁、さわやか福祉財団など）

○普及啓発 全市民が地域づくりに参画できるよう、積極的な情報発信に加え、住民主体の支え合い活動を可視化するため、住民活動発表会（フォーラム）を開催し、地域の自助・互助の促進を図りました。

また、ホームページや広報誌での情報発信に加え、SNS（Facebook、Instagram）の積極的な活用により、幅広い世代への普及啓発を図りました。

1.3. 葛城市福祉総合ステーション指定管理事業

新型コロナウイルス感染症などの影響により、利用者数や収益面で厳しい状況に直面しましたが、福祉総合ステーションとしての機能を維持し、地域住民の皆さまに安心かつ継続的なサービスを提供するため、利用促進に向けた広報戦略の見直しなど事業改善に取り組みました。

○施設利用状況

	5年度	6年度	前年度比
入場者数	97,916人	108,269人	+10.6%
プール	30,556人	36,482人	+19.4%
お風呂	37,654人	43,562人	+15.7%
卓球	5,365人	7,301人	+36.1%
パターゴルフ	298人	382人	+28.2%
カラオケ	161人	317人	+96.9%

○売上状況

	5年度	6年度	前年度比
各施設利用料収入	12,483,420円	15,418,510円	+23.5%
各教室利用料収入	11,105,300円	13,093,370円	+17.9%
食堂収入	15,584,648円	19,311,220円	+23.9%
その他の収入	1,673,626円	1,127,483円	△32.6%
合計	40,846,994円	48,950,583円	+19.8%

○水泳教室等参加状況

		5年度	6年度	前年度比
水泳教室	成人クラス	723人	902人	+24.8%
	小学生クラス	7,674人	8,318人	+8.4%
	幼児クラス	2,850人	3,690人	+29.5%
	障がい児クラス	151人	172人	+13.9%
短期水泳教室		1,294人	1,250人	△3.4%
水中ウォーキング教室		269人	258人	△4.1%
水中シェイプアップ教室		269人	382人	+42.0%
パパ・ママベビー水泳教室		11人	42人	+381.8%
(新)エアロビクス教室			253人	
(新)水泳記録会			32人	
合計		13,241人	15,299人	+15.5%

14. いきいきヘルスの集い事業

ゆうあいステーション、または地域の公民館等にて31回、延べ667名に対し介護予防教室を実施しました。

15. ひとり暮らし高齢者配食サービス事業

ひとり暮らし高齢者を対象に計24回、延べ818名の方に“まごころ弁当”を提供しました。

16. 誰でもできる水中運動教室事業

高齢者の生活機能の維持及び向上を図ることを目的に32回開催し、延べ695名の参加がありました。

17. 意思疎通支援事業

障害のある方等が、日常生活及び社会生活を営む上で生じる「社会的障壁」を除去し、障害のある方等の理解を深めるため、市民への広報誌による啓発や講座・研修を実施しました。

○手話奉仕員養成講座事業

聴覚に障害のある方と手話によるコミュニケーションの輪が地域に広がるよう手話奉仕員養成講座（入門課程、復習編）を全31回開催し、20名の受講がありました。

○手話通訳者設置業務

毎週、水曜日は新庄庁舎、金曜日は當麻庁舎に手話通訳者を設置し、聴覚に障害のある方に対する各種手続きなどの相談窓口として、72件対応しました。

○障害理解促進事業

様々な障害について理解し、ちょっとした手助けや配慮などを実践していただく方（あいサポーター）を育成するため、団体等を対象に「まほろばあいサポーター研修」を開催し、20名の参加がありました。

葛城市聴力障害者協会や手話サークル友情の方々のご協力により、小学生を対象とした手話講座を市内小学校（5校）で計5日間（延べ8回）実施しました。

広報紙【ゆうあい通信】手話コラム等を掲載し手話についての普及啓発を行いました。

奈良県社会福祉協議会からの受託事業

18. 日常生活自立支援事業

判断能力の十分でない高齢者や障害者の生活に関わる相談に応ずるとともに、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の支援を、利用者11名に対し、131回実施しました。

19. 生活福祉資金貸付事業

低所得者、障がい者または高齢者に対し、資金の貸付と必要な援助指導を行うことによりその経済的自立および生活意欲の助長促進ならびに在宅福祉および社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるよう貸付を行いました。

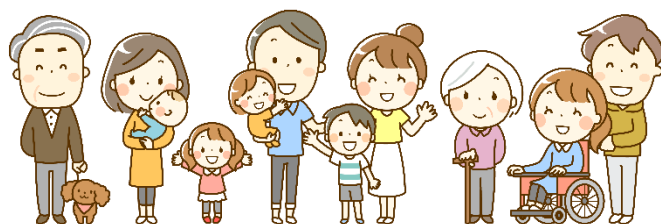
○利用状況

- ◆相談件数 延 121件
- ◆福祉資金貸付 4件（生活必需品：1件）（緊急小口資金3件）
- ◆教育支援資金貸付 3件

令和6年度 収支状況

収入決算額 494,609,810 円

科目	金額
会費収入	771,000 円
寄附金収入	647,439 円
経常経費補助金収入	24,793,526 円
受託金収入	101,066,226 円
事業収入	45,151,040 円
介護保険事業収入	104,564,626 円
就労支援事業収入	399,068 円
障害福祉サービス等事業収入	77,093,112 円
受取利息配当金収入	89,021 円
その他の収入	2,353,395 円
基金積立資産取崩収入	30,000,000 円
積立資産取崩収入	19,000,000 円
その他の活動による収入	61,707,281 円
前期末支払資金残高	26,974,076 円



支出決算額 461,853,797 円

科目	金額
法人運営事業	28,958,427 円
福祉活動事業	21,949,058 円
管理運営事業	134,421,481 円
生活支援体制整備事業	8,620,000 円
いきいきヘルスの集い事業	3,525,500 円
配食サービス事業	1,022,828 円
水中運動教室事業	726,000 円
意思疎通支援事業	1,411,000 円
生活福祉資金貸付金事業	290,000 円
臨時特例つなぎ資金事業	15,000 円
特例貸付フォローアップ事業	6,000,000 円
居宅介護支援事業	31,871,370 円
訪問介護事業	25,290,277 円
通所介護事業	43,654,012 円
相談支援事業	9,938,099 円
居宅介護等事業	9,054,868 円
生活介護事業	38,410,192 円
放課後等デイサービス事業	38,237,665 円
福祉基金運営事業	30,556,806 円
介護事業所特定預金積立金運営事業	19,029,614 円
退職基金運営事業	8,871,600 円

差引き **32,756,013 円** 次年度へ繰越